

デンソー山岳部 09 年春山合宿報告書

山城 白山周辺 A隊(大門山～大笠山～笈ヶ岳～三方岩岳) B隊(三方岩岳～瓢箪山)
 日程 平成21年4月28日～5月1日(予備日1日)

メンバー A隊 CL;金子 清 SL;吉田 明和 渉外;町田 修
 気象・医務;亀山 誠 食糧・会計;中山 正夫 記録;津田 廣一
 B隊 CL;竹内 幹雄 渡辺 勝利



白山本峰を望む

A隊

4月29日(水)快晴

出発(6:55)→休憩(林道途中)(7:55～8:10)→休憩(林道途中)(9:15～25)→ブナオ峠(10:22～40)→休憩(平坦部)(11:30～45)→分岐(12:50～13:15)→大門山(13:30～40)→分岐(13:50)→テント場着(14:15)→就寝(19:00)

林道を3.5時間ほど歩き、ブナオ峠に到着する。辺りには雪が積もっていて、その照り返しが眩しくかなり暑かった。一同、日焼け止めクリームやサングラスをつける。再び出発し、藪の中を進む。藪の中は所々雪が積もっていたが、しばらく歩きひらけてくると雪景色が一面に広がっていた。青空の下、新雪で誰も踏み込んでいない、まっさらな道を歩き、とても気持ち良かった。13:30には大門山に着き、皆と握手を交わす。南には雪化粧した大笠山がどっしりと構え、とても存在感があった。14:15にはテントを張り、酒と語らいを楽しんだ。



新雪を進む



大門山頂上にて

(吉田 記)

4月30日(木) 快晴

起床(3:00)→出発(5:10)→赤魔木古山(5:30)→休憩(平坦部)(6:05~25)→見越山(7:30~45)→休憩(奈良岳付近)(8:50~9:05)→休憩(ピーク)(10:00~15)→大笠山(11:25~50)→休憩(平坦部)(12:50~13:05)→宝剣岳(1741mピーク)(14:00~15)→錫杖岳(笈手前ピーク; テン場)(14:55)→就寝(18:30)

やや寒さを感じ、眠りが浅くなった時を待っていたかの様に、[3時!]の声がかかる。一斉に起きだしシュラフを片付け、中央に空間を作り朝食の準備。テントの中はすぐに温まり、特製のワカメ入りうどんを美味しく頂く。外へ出ると星が見え、天気の良いさを確信する。テントの撤収・パッキング・アイゼン装着と準備をする内に周囲が明るくなってきた。懐電もしまい、5時10分出発。硬い雪面にサクサクとアイゼンが気持ちよく利いている。“笈目指して頑張るぞ〜”と、心の中で気合いを入れる。すぐにヤセ尾根に



大笠山頂上 一休み

さしかかる。両側が切れ落ち、転べば下まで行っちゃいそうだ! 怖いと思うも、“大丈夫!大丈夫”と、自らを励まし慎重に足を置いていく。突然、亀山さんの右アイゼンが外れた。「このまま進む」と、アイゼンなしの足を蹴り込んで、危なげなく進んでいく。“さすが!”と、思っている内に赤魔木古を通過し、平坦なピークで1本。金子さんの提案で細引きを使い、アイゼンの爪先側を補強するが、これが効いた。外れる心配がなくなり、快調に飛ばす。7時30分に見越山頂へ。行動食を腹に入れ、次なるピークを目指す。登り下りを繰り返すも、大笠山が見えているのに、なかなか近づかない。傾斜が増すと、ハ〜ハ〜と呼吸も荒くなってくる。1時間程、歩いては休憩を繰り返す。気温の上昇とともに、雪がくさってアイゼンにくっつき出した。ピッケルでたたき落としても、すぐにくっついて靴が重く感じられる。そうこうして、急斜面をハ〜ハ〜と、一歩ずつ息をしながら登りきり、11時25分に見越山頂に着いた。“次は、いよいよ笈だ!”と、気合いを入れ直してみても靴が重く足取りが徐々に遅くなってきた。12時20分、平坦部でアイゼンを外し、次なるピーク(平坦部)で一本(12:50)。大福餅を腹に入れ、気合いを入れ直しては笈を目指す。ハ〜ハ〜、斜面が応える。次なるピーク(宝剣岳)へ登りきって一本。時間が微妙になってきた。皆、頑張っけて歩いてはいるが、朝の元気はない。笈一つ手前のピーク(錫杖岳)まで登りきった所で、ここをテン場と決定。時間・皆の疲労具合・明日の天候を総合的に考えてのリーダー判断、異議はなし。全員で地均しならぬ雪均し、テント設営、風よけ壁の設置(後で一部崩壊したが・・)をし、テントの中へ入っては、コンデンスミルクで糖分補給、差し入れ焼酎で気力回復、おいしく夕飯を頂いて、1曲づつ歌っては、快い眠りにつきました。メッセージ付焼酎は効きました。ありがとう!



あこがれの笈ヶ岳(テン場より)

(津田 記)

5月1日(金) 晴れ/微風

起床(2:30)→テン場発(4:30)→笈ヶ岳山頂(5:00~15)→休憩(岩場過ぎ)(6:20~35)→休憩(仙人窟過ぎ)(7:45~8:00)→休憩(国見手前)(8:55~9:10)→国見山(10:10~50)→三方岩手前(展望台)(11:35~55)→三方岩直下(12:45~13:05)→三方岩岳頂上(13:15~30)→休憩(14:20~40)→休憩(林道)(15:25~30)→スーパー林道料金所着(15:40)→料金所発(16:00)→五箇山温泉入浴→刈谷着(22:10)



笈ヶ岳山頂にて

懐電がいるかいないかの、ぎりぎりの明るさの中、笈ヶ岳へ向かう、いきなり急斜面の下りだが、昨日町田さんが付けたトレースのおかげで、スムーズにコルまで下る。ここから一気に頂上まで急斜面をアイゼンをきかせて登る。かなりの高度感で、滑ったら谷底まで400mぐらい落ちていくだろう。30分で頂上着、今日も快晴で360度の展望よし。

仙人窟までは、雪の上や雪の付き方の悪い所は藪こぎし、途中の岩場も慎重に下る。順調にアップダウンを繰り返していたが、国見山手前の急雪面で津田さんのペースが遅くなり、国見山で長休憩（40分）となる。瓢箪山までは、ほとんどアップダウンが無く、とんがった笈ヶ岳や、どっしり大きい大笠山を振り返りながら歩く。三方岩岳にて、荷物を再配分して、最後のトラバースに備える。長いトラバースを無事終え下山路へ入り、ほっと一安心。やがて雪も無くなりスーパー林道を横目に見ながら、落ち葉が溜まって滑りやすい登山道を下って行く。15:40に、町田号の駐車している料金所前に着いた。3日間好天にめぐまれ幸せだったが、休憩の取り方や出発時のもたつきなどOJTで指導を望みます。



三方岩岳山頂 最後のピークです

（中山 記）

<計画・行動>

今回の大門山～三方岩岳コースは一部登山道が無いため、春の残雪期に登るのが一般的である。

ロングコースで体力、技術力、読図力などが要求されるハイレベルな計画である。

メンバーはベテランと若手で構成され、ベテランが若手へ登山技術を伝承するに最適の場となった。

行動については全日程好天に恵まれ、安全登山で計画どおり実施することができた。

五箇山（西赤尾）ゲートから3時間の長い林道歩きから始まり、ブナオ峠からは我々でルートを探しながらの登山で「自分達の力で登っている！」と言う充実感を久しぶりに味わう事が出来た。

また、A隊とB隊の合流は実現出来なかったが、トランシーバーを使って情報交換を行い、安全で一体感のある行動ができた。

（金子 記）

<食糧>

今回久しぶりに合宿に参加し食糧担当も久しぶりだったので、少し不安であった。1日目の夕食のうなぎの蒲焼を秋刀魚の蒲焼（缶詰）に変更したが、けっこうおいしく特に不満も出なくてよかった。2日目、3日目の朝食は手早さで、麺類（うどん、ラーメン）を採用したが、早立ちには良かったと思う。お酒の差し入れしてくれた女子部員と、食糧計画の相談にのってくれた松中さん、山田君に感謝します。

（中山 記）

<部長所見>

① 活力の源：女子部員一同様、差入れありがとうございました。

② 未知の領域：白山北方稜線の笈ヶ岳以北はデンソー山岳部として足跡の無い世界である。積雪期にしかTRYできない山域にチャレンジして、計画通り走破できたことは意義深い。仲間といくつかのピークを握手しながら踏んだ。

③ 計画の面白さ：積雪と残雪の量と状態（稜線上の雪）で計画にスピードは多様に変化する。事前の冷え込みや新雪のおかげで、わりとまとまな雪稜を歩けた。雪庇の落ちたデブリやクラックも少なくラッキーだった。もっと冷えこめば、アイゼンを利かしたスピーディーな行動につながっただろうが、体力がついて行かないか？

④ マイペース&クラブペース：山に入ったら全てクラブペースで行動を推進する。それはアプローチから寝食に到るまで全てである。メンバーは入山と共にスイッチの切替が必要である。そこからはリーダーシップとメンバーシップで山行を形成してエンジョイして行く。テントの中のくつろぎの時間以外にマイペースは存在しない。

横軸に時間（スピード）・縦軸に正確さ（安全）・Z軸に事前準備と予知、予測、知見をもって規律有る安全登山が成立する。実際の行動やテント内生活で大事に至らないニアミス散発した。今後の戒めとしたい。

⑤ ブナの木の山、白山：まさしくブナオ峠の名前の通りブナの山である。三方岩岳からの下りもブナ林の中にわずかなふみ跡を見つげながら下った。上部ではまだ固い芽も下るほどに新緑で明るくなる。「山笑う」の季語そのものだ。

「大門へぶなが導く山路かな」

（町田 記）

B 隊

4/30 (木) 快晴

起床 (5:00) → 出発 (6:00) → スーパー林道側壁下部 (7:30) → 1265m ピーク (8:30) → 1471m ピーク (9:00) → 三方岩コル (11:35~50) → 頂上 (12:00~10) → 三方岩神 (12:30~13:30) → 展望台 (14:30~45) → 瓢箪山手前幕営地 (15:00) → テント設営後瓢箪山往復 → 就寝 (20:00)

前日は白川郷までの入山のみなので、豊田の自宅に竹内君に迎えてにに来てもらいゆっくり出発。休日の高速割引を有効活用しようと松平 IC から東海環状に乗るもしばらく走るとラジオの道路情報で事故渋滞が報じられている。よくよく聞いてみるとこの近くのことらしく瀬戸赤津から先はかなりの渋滞みたいである。我々は運よく瀬戸赤津手前だったため、すぐにこのインターでおり、瀬戸から多治見、美濃経由で国道 156 号線をそのまま北上。途中の道の駅で食事をし、荘川桜を右に見たりしてゆっくり白川郷に入り、スーパー林道馬狩料金所の広々とした駐車場にぽつんと留めてある A 隊の車デポの横に車を止めたのはまだ陽も高い 15:30 だった。明日からの安全登山を期して山の神に祈りを捧げ、軽く乾杯後車中泊。

明ければ登山初日の朝を迎える。鶯の囀りに目を覚ますと天候は文句なしの紺碧の空、眼前には白山北方稜線上に連なる大笠山からの白銀の峰々が一望できる素晴らしい眺望で今日の登山の成功を約束して



熊の足跡？

くれているようだ。登山準備を整え勇躍出発。二人とも 2 日の行程にしては重すぎるくらいのかいザックを担いでいる。もっともその中にはボッカ訓練用の水？や今晚の酒宴用の差入れの焼酎等も含まれてはいるが・・・。林道を二曲がりほどで夏道登山道の登り口に着く。ここからいきなりの急登となる。雪で曲げられた灌木が長いザックの妨げとなりその上、登山道を覆い隠すくらいの落ち葉の堆積でまるで枯葉スキー場のゲレンデを歩くようで時々滑り、歩きにくいことこの上ない。それでもブナ林の新緑に

慰められながらぐんぐん高度を稼いでいく。スーパー林道側壁下部の草付の厄介なへつりを経て右手眼下に白川郷展望台が望める 1265m ピークまで来るとクラストした雪面となり、ようやく歩き易くなる。誰一人としていない静かな空間に二人の息使いだけが聞こえる。この静寂の中に今を生きているという実感が沸いてくる。上部に続いているかすかに残るトレースを黙々と登るが所どころで熊の足跡らしきものを見つける。どうも気持ちが悪い。「タケちゃん歌を歌ってくれ！」と頼むと「ある～日森の中、熊さんに出合った・・・」と歌い出す。「おいおい熊と出合ってどうするんだ」と笑っているうちに、1471m ピーク付近に着き A 隊と交信。彼らは現在大笠山手前にいるとのこと。右手には彼らの頑張っている北方稜線、左手は野谷荘司山から妙法山に続く稜線が、眼前には三方岩岳手前のちょっと急傾斜な 1600m くらいの小ピークが行く手を阻んでいる。雪面の左手の灌木交じりの中を雪庇に気を付けながら、しかし以外と簡単にこのピークを乗り越ると三方岩岳の由来とも言える切り立った岩壁が見えてくる。夏道通しに岩壁の基部まで登り、ここから加賀岩の間を抜けるトラバースが本日のコースのハイライトである。確かに斜面は急で切れ落ちてはいるが、雪の状態も安定している。渡辺がトップでアイゼンを着けずにノーザイルで慎重に渡る。特に急傾斜の 50m を渡った地点で一息入れ、さらに傾斜の落ちた 80m でトラバースを終える。竹内君も左斜面は苦手だと言いながらも難なく渡り終える。このコルでザックをデポし、緩傾斜の灌木帯の中を頂上まで行ってみることにする。これより高いところはない頂上らしきところには雪に埋もれているのか頂上を示す何も見当たらない。この下りで野谷荘司山から来たという単独行者に出会う。灌木の中に座っているので熊かと一瞬びっくり。野谷荘司山から三方岩頂上の右側からの巻き道があり、彼はどうやらそのルートで来たようだ。なんとなく拍子抜けしたままデポ地点に戻り瓢箪山へのルートを進む。夏道は三方岩神からスーパー林道の岐阜県側トンネル入口付近に下り、トンネルを抜けた石川県側から展望台に上がるルートのようなのでまずそのルートにこだわり探すも岐阜県側のトンネルに下りるルートが判らない。しばらく



三方岩岳

付近を偵察してみると有雪期はトンネルの上の稜線通しで行くのが常道らしく地図では三方岩神からし

っかりとした稜線がトンネル上を通っているので行くことにする。クラストした下り斜面でアイゼンを付ける。アイゼン歩行の調子のよさで真直ぐに降りすぎ、正規ルートから外れるというハプニングがあったりしたが大事に到らずすぐに引き返し展望台に着く。木製の立派なものでここに登って眺める白山の雄姿は素晴らしく、しばし今までのザックの重さを忘れさせてくれる。しっかりと堪能した後は、今日の泊まり場の瓢箪山を目指すだけであるがそれは指呼の間であった。瓢箪山手前の絶好地にテント設営。陽光暖かく、風穏やかで周囲には誰もいない静かな別天地とくれば、あとは一杯の酒以外に他に何を望むことがあろうか。正に「春山万歳」の一日となった。(渡辺記)

5/1 (金) 快晴

起床 (3:00) → 出発 (5:20) → 国見山東ピーク (6:00) → 瓢箪山幕営地 (6:30) → 展望台 (6:55) → 三方岩神 (8:00) → 1471m ピーク (9:00) → 1265m ピーク (9:50) → 馬狩登山口 (11:20)



テンバ

前日のA隊の情報から、我々も早起きをして出発準備をする。朝食を済ませテントを撤収、ザックはこの場にデポして国見山へのピストンをする。天候は快晴でよくしまった雪の上を国見山に向かう。国見山東ピークでA隊と連絡を取る。A隊の現在地は笈ヶ岳を過ぎて下りに差し掛かったところである。早いピッチでこちらに向かっていることを知る。そして、我々は瓢箪山幕営地に戻り、ザックを背負い下山を開始する。展望台を過ぎその先はデブリに気をつけながら樹林寄り歩いていく。そして最後の急坂を登り終えると三方岩神である。ここで白山を目前に展望をしばらく楽しんだ後再び歩き始める。登りに使った三方岩岳の東面を慎重にトラバースしていく。快晴、無風の中ではあるが緊張しながら進む。二箇所トラバースを通過してほっとする。その先、さらに下っていき 1471mのピークでA隊と再び交信して現在地を確認する。国見山手前に差し掛かったとのことで全員元気であることを知る。さらに進んでいくと1265m手前付近では新しい熊の足跡らしきものを見つけて、周囲を気にしながら歩いていく。途中でアイゼンを外すことにした。さらに下っていくと、やがて雪もなくなりブナ林の落ち葉に埋まった夏道になる。狭い登山道にしっかり落ち葉が乗っていて滑らないように慎重に下っていく。やがてスーパー林道側壁下部の草付の厄介なへつりが現れた。ここを通過するのに手で草をつかみ、足をしっかり伸ばしてやっとの思いで渡りきった。そして、この後も灌木の樹林帯をザックが引っかからないように何度もお辞儀をしながら通過する。この辺りでA隊と交信を試みるが樹林の中で電波が途切れるので、一旦交信を切る。樹林帯の中をさらに進むとやがて広い登山道に出た。ここからは右手に川が流れており、登山口も目の前であることを確信する。景色を眺めながら歩いているとしばらくしてスーパー林道馬狩料金所馬狩登山口に到着した。無事下山したことを喜び渡辺先輩と硬い握手をした。この後、12:00にA隊と交信して現在地の確認、現在展望台にいて全員元気であることを知る。我々B隊も無事下山したことを連絡して、無線での交信を終了した。この後は、車で平瀬温泉にある「しらみずの湯」に立ち寄り、汗を流し食事をして帰路についた。(竹内 記)



三方岩岳横のトラバース

09年 春山会計報告(Aパーティ)

内容	円
高速代(豊田南→白川郷)2台	3,100X2=6,200
高速代(白川郷→五箇山)亀山号	300
高速代(白川郷→五箇山)町田号	400
高速代(五箇山→豊田南)2台	3,650X2=7,300
食糧(予備食あり)	8,123
ガソリン代町田号	510km/7.5LX120円=8,160
ガソリン代亀山号	510km/9.0LX110円=6,237
車両使用料2台	510kmX5円X2=5,100
合計	41,820
1人当りの会費(6名)	41,820/6=6,970

